



OECC 第 5 回橋本道夫記念シンポジウム

パネルディスカッション冒頭発表2 「アジア太平洋気候変動適応情報プラットフォームについて」

国立環境研究所 気候変動適応センター
アジア太平洋気候変動適応研究室 室長

増富 祐司

本日は、「アジア太平洋気候変動適応情報プラットフォーム」(Asia-Pacific Climate Change Adaptation Information Platform: AP-PLAT)について説明致します。

【AP-PLAT とは】

AP-PLATは、基本的には気候変動の適応に特化したウェブサイトで、国立環境研究所、環境省及びIGESの3者により共同開発・運営しており、特に、アジア・太平洋地域に焦点を当てています。また科学とステークホルダーの橋渡しを目指し、①気候変動リスクや適応事例等の知見・情報の提供、②適応等立案に関する支援ツールの開発・提供、及び③気候変動影響評価や適応計画策定、実施に関する人材育成、能力開発を活動の三本柱として、適応策を促進することを目的としています(図1参照)。

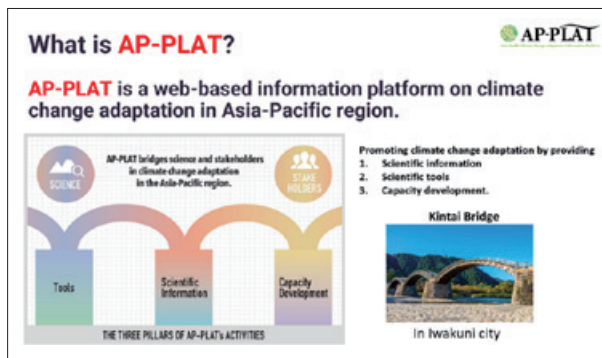


図1「AP-PLAT 概要」(発表資料より抜粋)

このプラットフォームの構造としては、様々な利用者が考えられますが、我々としては、一般の人々や行政の方々、民間企業の方々に対するウェブサイトを作っており、それを支えるデータやツールを開発しています。国立環境研究所の中期計画が2026年の3月に終了しますが、それまでに、この全体像を完成させていく計画です(図2参照)。

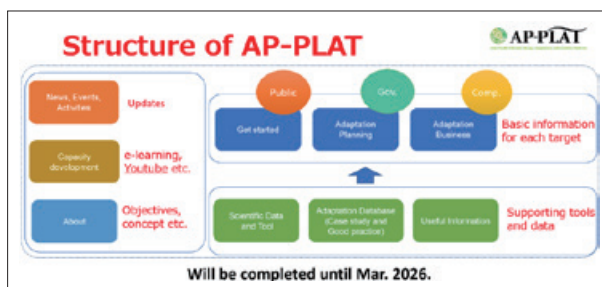


図2「AP-PLAT の構成」(発表資料より抜粋)

AP-PLATは、2019年6月開催のG20環境・エネルギー大臣会合(軽井沢)において正式に立ち上げられました。このG20大臣会合では、「G20適応と強靱なインフラに関するアクション・アジェンダ」が採択されていますが、AP-PLATは、このアジェンダの代表的取組として取り上げられています。AP-PLATの設立当初、このウェブサイトを開覧した人の数は1,000人/月程度でしたが、年を追うごとに増加し、2023年1月では、3,800人/月にのぼっています(図3参照)。



図3「開発の経緯及びウェブページビュー・訪問者の推移」(発表資料より抜粋)

国立環境研究所の気候変動適応センター(CCCA)がAP-PLATを設立する根拠ですが、気候変動適応法第18条には、国際協力の推進という項目があり、日本が国際的な情報共有システムをつくることが規定されています。この適応法が存続する限り、気候変動適応センターは、改良・開発を続けていくことになります。

【ClimoCastについて】

AP-PLATには、ClimoCastというキーツールがあります。これは最新の気候予測情報を地図やグラフで表示したり、容易にデータをダウンロードできるものです。こうした情報を全ての人に、手早く、簡単に届けることができるツールです。このClimoCastは、わずか2ステップで、皆さんが居住する町の気候情報を得ることができます。皆さんの事業や研究、あるいは仕事において、それぞれの地域の気候変動、将来の平均気温が何度になるか知りたい場合、簡単な操作だけで情報の入手が可能となります。さらに教育現場における教材としても有効と思われます。

情報共有に戻りますが、ClimoCastは、気候情報の提供が中心となっていますが、Climate Impact Viewerというツールでは例えば、コメの収穫量については、適応策がある場合とない場合において、それぞれのコメ収穫量を予測することができます。また、海面上昇や健康、水資源等の各分野において、科学的な情報を提供することもできます。こうした科学的な情報を掲載することにより、各国の政策立案者が自国や地域の適応策計画の立案に役立てることができるとされています。

【Adaptation Planningについて】

次に行政支援システムとして、Adaptation Planningというページを新たに作り、様々な情報を載せています。例えば、事業を計画するためのプロセスをまとめています。また、UNFCCCのウェブサイトには、各国の「国家適応計画」(National Adaptation Plans: NAPs) 関連の情報が多数掲載されており、例えば、グローバルストックテイクやNDC等様々な概念がありますが、それらをうまくまとめて、UNFCCC絡みの適応計画に関するチームの理解を深めることができる情報も提供しています。また、他国の国家適応計画 (NAP) がどうなっているか等の簡単な分析も載せています。

AP-PLATでは、NbSに特化したページ (Inspired by Nature-based Action and Solutions: INAS) も作っています。ここには、いろいろな事例が載っており、様々な事例を共有されています。こうした事例の共有が横展開され、また後になって、このような活動に携わりたいと志す人にとって非常に有益な情報になると思われます。そうすることにより、科学情報へのアクセスに対する敷居を下げることになると思います。

【研修事業】

また、人材育成も重要で、NbSに関してもYouTubeの動画等も制作しており、他の様々な温暖化適応に関する情報等も載せています。また、海外でも人材育成を目的とするワークショップを開催しています。2023年5月にバンコクで開催したワークショップですが、先程のツールやAP-PLATの使い方、さらには「緑の気候基金」(GCF) に申請するコンセプトノートの作成や科学的なツールの使い方等についての研修も実施しました (図4参照)。

【AP-PLATの協力ネットワーク】

最近、このAP-PLATに協力頂ける団体を大幅に増やしています。上述した幅広い領域に対し、国立環境研究所だけではできないことも限られています。そのため、様々な国際的な機関と共同活動を展開しようと仲間を増やしている段階です (図5参照)。現在多くの機関とも共同関係を結びましたので、是非、JICAやOECCにも、このグループに入って頂き、我々と一緒に協力できればと願っています。



図4 「タイ・AITでのAP-PLAT研修ワークショップ」
(発表資料より抜粋)



図5 「AP-PLATの協力機関・団体」 (発表資料より抜粋)

ところで昨年2022年AP-PLATでは、枠組文書を作成し、その目標に「気候変動にレジリエントな開発」(Climate Resilient Development: CRD) を掲げました。このようにAP-PLATにとってCRDは、一丁目一番地の目標として位置付けられています。

【まとめ】

今後、各種適応策の取組展開にあたっての下支えとしてAP-PLATを是非活用頂きたいと思っています。AP-PLATは立ち上げたばかりですが、皆さんと協働して、これからどんどん発展させていきたいと思っていますので、今後ともご協力ご支援方よろしくお願い致します。